

桜ヶ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News



特集

新病院長就任

新副病院長より、みなさまへごあいさつ

特集

新診療科(形成外科)紹介

再開発に関するお知らせ

©鹿児島大学病院基金への寄附者様ご芳名一覧

65
2025.6

特集

新病院長就任

石塚 賢治 病院長

「選ばれる病院」を目指して—— 医療の未来像を共に描いていきたい

一病院長就任にあたっての抱負をお聞かせください。

これからの大学病院にまず求められるのは、「選ばれる病院」になることです。患者さんと患者さんをご紹介いただく地域の主治医の先生に「鹿児島大学病院で診察・治療を受けたい」、「鹿児島大学病院に任せたい」と思われるような存在でなければなりません。

かつての大学病院は、限られた「選ばれた患者さん」が行く場所という印象がありましたが、今は全く異なります。それでも「わざわざ大学病院に行かなくてもいい」といった誤解が残っていることも事実です。私たちは、鹿児島大学病院をもっと患者さんに親しまれる病院にしたいと考えています。そのために、サービスや対応の迅速さ、質の高い医療、快適な環境づくりなど、あらゆる面で進化していかなければならないと思っています。

一選ばれる病院を実現するための取り組みとは？

例えば、地域の医療機関から紹介状を受けた患者さんの予

約確定にかかっていた受付時間を短縮しました。かつては患者さんの症状に適した専門医を確認するのに1時間ほど要していましたが、患者さんにとっては待ち時間が長いのは大きな負担です。ですから現在は、専門性の高い診療への導線は維持しつつ、約20分で予約できる体制を整えています。

もちろん利便性だけでなく、医療の「クオリティ」も追求しています。私たちが目指すのは「鹿児島で1番」ではなく、九州、そして日本でトップレベルの医療を提供できる病院です。福岡や東京に行かなくても最良の治療が受けられる、そのための体制づくりにも取り組んでいます。

クオリティとは単に専門性や医療技術だけにとどまりません。医療設備や医師・看護師・コメディカルスタッフの患者さんへの姿勢、病院全体のホスピタリティ、心理的な快適さといったアメニティの充実も含まれます。例えば昨年、院内に全国チェーンのコーヒーショップが入り、心地よい音楽が流れる中で患者さんや

教えて！^(素顔の)石塚先生！

Q 医師を志したきっかけは？

A 私が小学生になる前、叔父が鹿児島大学病院で食道がんの手術を受けたのですが、その後10年近く生き抜いたことがきっかけの一つです。そのとき、子どもながらに医療の持つ力を感じたのだと思います。それが今につながっています。

Q 血液内科を専門に選ばれた理由は？

A 血液の病気は、薬で治すことができるんです。もちろん、すべてが治るわけではありませんが、白血病やリンパ腫のような血液がんは、薬物療法だけで完治できることも少なくありません。「治せる病気」としての可能性に魅力を感じました。

Q 桜島を見るのが好きとのことですが？

A 鹿児島人の心のふるさとですよ。年少時から吉野で育ったこともあり、特に吉野から見る桜島が一番好きです。留学先のアメリカでもライブカメラの桜島を見ていました。現地の夕日が、同時刻に桜島から朝日となって昇っていく光景を眺めるのも印象深い体験でした。



Profile

- 1988年 鹿児島大学医学部卒業
- 1990年 国立都城病院 医師(内科)
- 1991年 鹿児島大学医学部附属病院(第二内科)医員
- 2000年 隼人町立医師会医療センター 医長(内科)
- 2002年 福岡大学病院 助手(血液・糖尿病科)
- 2003年 ダナ・ファーバーがん研究所(博士研究員)
- 2006年 福岡大学病院 講師(血液・糖尿病科)
- 2015年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科附属難治ウイルス病態制御研究センター
血液・免疫疾患研究分野 教授
- 2019年 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 人間環境学講座
血液・膠原病内科学分野 教授(改組)
- 2020年 鹿児島大学病院 副病院長(医科総括・医療安全担当)
- 2023年 鹿児島大学病院 副病院長(医科総括・総務担当)
- 2025年 鹿児島大学病院 病院長

専門医

- 日本内科学会 総合内科専門医
- 日本血液学会 血液専門医
- 日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医

指導医

- 日本内科学会 内科指導医
- 日本血液学会 指導医
- 日本臨床腫瘍学会 指導医

逆風に向かって飛べ

ご家族がホッと一息つけるような空間ができました。大学病院が桜ヶ丘に移転して50年経ちましたが、今の病院は患者さんにも職員にもやさしい場所へと進化しています。

一鹿児島という地域ならではの課題についてはどうお考えですか？

鹿児島県は離島が多く、また各地で急速に高齢化が進んでいます。若い人が少なくなり、老老介護が増える中で、通院すら困難になる方が増えてきています。だからこそ、診療機能の強化はもちろんですが、医師派遣機能の充実も大学病院の重要な役割となっています。もちろん、大学病院だけではなく、行政や医師会の先生方とも共働で取り組んでいかなければならない課題だと思います。

一スローガン「挑戦。未来へ繋ぐ鹿児島の医療は私達が創る。Go Forward Go Together」に込めた思いは？

高齢化・過疎化という大きな課題に直面する中、私たちの取

り組みは未来の医療のモデルにもなり得ると感じています。私の任期は3年と限られていますが、次の10年・20年の間に、日本は経験したことのない少子高齢化社会を迎えることになるでしょう。そういった社会で、すべての患者さんのもとに可能な限り高度な医療を届けるということはまさに「挑戦」です。何よりも大事なことは、病院職員全員が「前に進もう」という気持ちを持って一緒に進んでいくことです。このスローガンにはそういった思いを込めました。

病院が進化するためには、まず個人が伸びることが大切です。それぞれの職員が少しずつ成長すれば、その集合体として病院全体の成長につながります。医療を取り巻く環境は厳しく、さまざまな問題がありますが、「病院のために頑張る」のではなく、一人一人が「自分のために学び、挑戦する」ことで、自然と病院も伸びていく。そんな雰囲気、みんなで作っていきたいと思います。

Q ご趣味は？

A 趣味はあまりないのだけど、旅行が好きです。出張も苦にならないくらい、知らない場所を訪れては、その土地の風景を楽しんでいます。

Q 最後に、座右の銘「逆風に向かって飛べ」の意味を教えてください。

A 飛行機は向かい風の方が離陸しやすいそうです。私たちも、順風満帆なときより逆風に向かっていくの方が、大きく成長するチャンスです。困難の中にいるときにこそ、自分が磨かれる。そう自分に言い聞かせている言葉です。

新副病院長より、みなさまへごあいさつ



副病院長
(医科総括・総務・経営企画担当)
診療科：腎臓・泌尿器センター 泌尿器科

榎田 英樹

この4月から副病院長(医科総括・総務・経営企画担当)を拝命しました。大学病院の職員の方々が気持ちよく働いて、多くの患者さんが笑顔になれるように、いろいろな方と相談をしながら改善点を検討して参ります。是非、多くの声をお寄せください。



副病院長
(歯科総括担当)
診療科：成人系歯科センター 保存科

西谷 佳浩

石塚病院長新体制の下、歯科総括担当の副病院長として歯科部門だけでなく病院全体の運営に貢献できるように尽力する所存です。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。



副病院長 (特命)
(医療安全管理・感染制御担当)
診療科：消化器センター 消化器外科

大塚 隆生

医療従事者の思いが100%その通りに行かないのが医療です。重大事故を未然に防ぐよう皆さんと考えていきたいと思ひます。早めの情報共有と相談ができる雰囲気を作ってまいります。



副病院長 (特命)
(病院DX・医療情報担当)
診療科：循環器センター 心臓血管内科

大石 充

病院DX・医療情報担当および医療情報部長を拝命しました。院内スマホを軸としてAI、ICT、IoTをキーワードに業務効率化と医療安全・経営効率化の両立を目指した新しいインテリジェントホスピタルを構築したいと考えています。



副病院長 (特命)
(災害対策・危機管理担当)
診療科：放射線診療センター 放射線科

吉浦 敬

鹿児島大学病院は、災害拠点病院および原子力災害拠点病院に指定されており、傷病者受け入れや医療チーム派遣などで、地域・全国の災害時の医療に貢献しています。万一の原子力災害に備えての、訓練や体制整備にも取り組んでいます。



副病院長 (特命)
(働き方改革担当)
診療科：小児診療センター 小児外科

家入 里志

社会構造や疾病形態が変化していくなかで、同時に働き方改革を進めていくことは容易ではありませんが、鹿児島大学病院では石塚新病院長のもと、Go Forward, Go Together で一丸となって、鹿児島の未来の医療を創造します。



副病院長 (特命)
(周術期支援・手術効率化担当)
診療科：麻酔全身管理センター 麻酔科

松永 明

私の専門は麻酔科ですが、手術を受けられる患者さんが安全に且つ快適に手術を受け退院できるようにすることが私の仕事です。お気づきの点がございましたら、遠慮なくお知らせください。



副病院長 (特命)
(医科保険診療適正化担当)
診療科：整形・運動機能センター
整形外科・リウマチ外科

谷口 昇

保険診療の適正化を図るとともに、ロボット手術をはじめとした高難度医療技術の導入、さらに医療材料や医療機器の適正な管理を通じて、安全かつ質の高い医療の提供に努め、病院運営に貢献してまいります。



副病院長 (特命)
(看護・患者サービス担当)
看護部 (看護部長)

福田 ゆかり

看護・患者サービスを担当いたします。患者さんご家族が安心・安全に高度医療を受けられるよう、看護の質と患者サービスの向上に取り組んでまいります。地域住民の皆さまに信頼される病院を目指して尽力いたします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



鹿児島大学病院 感覚器センター 形成外科 部門科長

加藤 基 准教授



医道貫徹

Profile

2009年 鹿児島大学医学部卒業
 2015年 東京大学形成外科 後期臨床研修プログラム 修了
 (福島県立医科大学2年・岡山大学1年・東京大学1年)
 2015年 埼玉県立小児医療センター 形成外科 医員
 2018年 国保総合病院 旭中央病院 形成外科 医長・診療科長
 2021年 日本学術振興会 特別研究員(DC2)
 2023年 東京大学大学院医学系研究科 博士(医学)
 2023年 岡山大学病院 形成外科 助教
 2025年 鹿児島大学病院 感覚器センター 形成外科 准教授

専門医:日本形成外科学会 専門医
 指導医:日本形成外科学会 領域指導医
 小児形成外科分野 指導医
 再建・マイクロサージャリー分野 指導医

0.3ミリの技術で再生と回復をかなえる チーム医療のクローザー

一形成外科について教えてください。

外傷による欠損などを整える「見た目」に関する治療が主流ではありますが、実は機能回復にも関わっています。例えば、がんの手術で舌を失った場合、見た目を元の形状に近い状態に戻すだけでなく、「食べる・話す」という動きの回復を目指した治療も行います。

一般的な診療科は臓器を対象としていますが、形成外科は「技術」をもとに発展してきた医療です。皮膚をきれいに縫い合わせる技術が進化して、血管をつなぐことが可能になりました。そうすると組織移植ができるようになり、臓器や器官を新たに作り直す再建手術の幅が広がります。最近では、リン

パ浮腫の治療が大きく進んできました。これは乳がんの術後に手がむくむ病気ですが、0.3 ミリほどのリンパ管と静脈を繋ぐスーパーマイクロサージェリという技術で改善が見込めます。赤ちゃんの胸やお腹に水がたまる難病も、この技術で回復することがわかってきました。こういった技術を使って、他の診療科と共働で治療していくことがこの科の特徴だと思っています。

一この春、鹿児島大学に形成外科が新設されましたが、今後の展望は？

まずは、形成外科の役割を知っていただくことが一番だと思っています。手術を終えた患者さんが日常生活に戻るための治療に貢献するのが形成外科医ですので、野球のピッチャーで

いうと、先発、中継ぎの後に登板する「クローザー」のような立ち位置を築いていきたいです。

もう一つ取り組みたいのは、血管奇形の治療です。これも他科とチームワークで治療することが多い病気ですが、鹿児島県内で対応できる病院が少なく、私の得意分野でもあるので力を入れていきたいですね。

一鹿児島に戻ってきて感じることは？

鹿児島大学在学中にマイアミへ留学し、そこで形成外科の面白さを知りました。「いつかこの鹿児島で最先端の形成外科を」と思ったのが原点です。ようやく、長年の夢をかなえるためのフィールドに立てたように感じています。

教えて! (素顔の) 加藤先生!

Q ご趣味は？

A 柔道をしていて、今も車の中に道着を置いています。道場での学生さんとのコミュニケーションを期待しています。

Q 柔道以外の気分転換は？

A 空手や将棋も嗜みますが、学生時代にウインドサーフィンをやっていたので、鹿児島でもた楽しみたいと思っています。

Q 形成外科を目指したきっかけは？

A 留学がきっかけでした。柔道をやっているような大きな手でも練習すれば繊細な手術ができるようになります。

令和9年1月より

病院玄関・ロータリー・駐車場・バス停が便利に生まれ変わります

鹿児島大学病院外構整備完成イメージ



- ・屋根付き身障者用駐車場
- ・患者用駐車場
- ・駐輪場

- ・病院玄関
- ・送迎車用ロータリー
- ・バス・タクシーのりば

- ・患者用駐車場 (一部太陽光パネル屋根付き)



再開発整備中につき
ご不便をおかけしております。
ご協力のほど宜しくお願い致します。

※イメージ図であり実際の完成物とは異なります。
※今後、工事等を進める中で詳細は変更になる可能性があります。

鹿児島大学病院基金への寄附者様ご芳名一覧

鹿児島大学病院基金へのご協力を賜りました皆様にご心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、基金の目的に沿って有意義に活用させていただきます。ご寄附いただきました皆様方への感謝の意を込めまして、ご芳名等を掲載させていただきます。

なお、ご意向により、ご芳名等の掲載をご希望されない寄附者様につきましては、掲載いたしておりません。今後とも、鹿児島大学病院へのご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年6月 鹿児島大学病院長 石塚 賢治

令和6年10月から令和7年3月までの寄附者様(順不同・敬称略)

- ◆個人
- 【二十万円】 早川 裕
- 【十万円】 坂下 榮子
- 【五万円】 佐藤 秀夫
- 【三万円】 日高 貴志
- 鈴木 亮一
- 希望のみ掲載
- 希望の寄附者様
- 浜崎 和則
- 中村 雅之
- 青崎 孝子
- 嶽崎 俊郎
- 春成 学
- 寺崎 寛人
- 阿久根 誠
- 吉田 芳子
- 【掲載を希望されない寄附者様】 十六名

鹿児島大学病院 採用情報

お問い合わせ先

鹿児島大学病院 総務課 人事係
TEL:099-275-6841



採用情報ホームページ:
<https://www.hosp.kagoshima-u.ac.jp/recruit/>

鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い



お問い合わせ先 鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係
TEL:099-275-6692 FAX:099-275-6846
Eメール: kufsyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp
基金ホームページ:
<https://www.hosp.kagoshima-u.ac.jp/fund/>

大学病院では、外来における患者さんのお世話などをしていただくボランティア活動を常時募集しています。「鹿大活き活きボランティア」にご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 鹿児島大学病院 医務課 医療安全係 TEL:099-275-5157

表紙の写真

病院長と各職種の代表者(令和6・7年度入職の職員)が集まってヘリポートにて撮影。



鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより 65号

発行日 / 2025(令和7)年6月発行 発行 / 鹿児島大学病院広報委員会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6726 URL: <https://www.hosp.kagoshima-u.ac.jp/>

